

1983 年大会記録

国際

スーパーチャンピオンカップ=フリースタイル(3月4~5日、東京・代々木競技場)

第2体育館)

48kg級 小林孝至(日大)=3位、山下浩(茨城・霞ヶ浦高)=4位、入江隆(自衛隊)=5位、石川真一(栃木・足利工大付高)、52kg級 佐藤満(日体大)=2位、朝倉利夫(鹿児島県体協)=5位、57kg級 富山英明(日大教)=優勝、上野宏之(群馬・館林高教)=4位、元沢(自衛隊)=5位、62kg級 金子博(群馬・西邑楽高教)=2位、栄和人(日体大)=3位、赤石光生(青森・光星学院高)=5位

ワールドカップ=フリースタイル(3月26~27日、米国・トレド)

4位(1勝3敗)

1回戦 日本 [2 - 8] ソ連

2回戦 日本 [2 - 8] 米国

3回戦 日本 [8 - 2] アフリカ連合

4回戦 日本 [3 - 7] カナダ

《個人順位》 48kg級 小林孝至(日大)=2位、52kg級 朝倉利夫(鹿児島県体協)=優勝、57kg級 上野宏之(群馬・館林)=5位、62kg級 栄和人(奈良県体協)=3位、68kg級 杉野浩吉(自衛隊)=4位、74kg級 樋口直己(奈良県体協)=4位、82kg級 水橋徹(国士舘大)=4位、90kg級 太田章(早大助)=3位、100kg級 本田多聞(日大)=4位、100kg以上級 石森宏一(日体大)=5位

コンコード国際大会=グレコローマン(5月27~28日、米国・コンコード)

48kg級、52kg級、57kg級 江藤正基(自衛隊)=優勝、62kg級、68kg級 中島光正(とりせん)=2位、74kg級 谷一郎(群馬・太田工高教)=3位、82kg級、90kg級 今村民夫(自衛隊)=6位、100kg級、100kg以上級

世界エスポアール選手権=グレコローマン(6月30日~7月2日、ノルウェー・クリスチャンサント)

48kg級 藤川健治(自衛隊)=二失、52kg級 上島一敏(国士舘大)=二失、57kg級 飯森勇次(東洋大)=三失、62kg級 出口泰三(国士舘大)=二失、68kg級 奥村拓生(国士舘大)=三失、74kg級 小林由明(日体大)=三失、82kg級 山口真

一(東洋大) = 二失、 90kg 級 呑香竜二(日大) = 二失、 100kg 級 東政弘(日体大) = 二失、 100kg 以上級 猿田充(国士館大) = 三失

スバルタキアード(7月11~28日、ソ連・モスクワ)

《フリースタイル》 48kg 級 小林孝至(日大) = 5位、 52kg 級 朝倉利夫(国士館大教) = 4位、 62kg 級 赤石光生(日大) = 二失

《グレコローマン》 52kg 級 宮原厚次(自衛隊) = 5位、 68kg 級 山口勝之(和歌山県庁) = 二失

世界少年選手権(8月2~6日、米国・ミズラー)

《フリースタイル》

世界エスポアール選手権 = フリースタイル(8月9~11日、米国・アナハイム)

48kg 級 是永順次(福岡大) = 8位、 52kg 級 上島一敏(国士館大) = 7位、 57kg 級 森岡敬志(日体大) = 4位、 62kg 級 飛田(自衛隊) = 9位、 68kg 級 森巧(国士館大) = 7位、 74kg 級 涌井(専大) = 6位、 82kg 級 赤石明雄(国士館大) = 6位、 90kg 級 林(法大) = 6位、 100kg 級 早坂(大東大) = 6位、 100kg 以上級 猿田充(国士館大) = 7位

世界ジュニア選手権(8月11~13日、米国・オークロン)

《フリースタイル》 48kg 級 酒井浩二(群馬・館林高) = 5位、 52kg 級 崎口修司(和歌山・和歌山北高)、 56kg 級 Tagagiwa, Toshihiko、 60kg 級 川村憲保(茨城・土浦日大高) = 3位、 65kg 級 古矢浩祥(千葉・八千代松陰高)、 70kg 級 尾形勝志(青森・光星学院高)、 75kg 級 奈良岡豊(青森・光星学院高) = 3位、 81kg 級 斉藤竜雄(千葉・佐倉高) = 4位、 87kg 級 高橋重則(青森・八戸工高) 6位、 87kg 以上級 石橋浩一(東京・東京実高) = 5位

《グレコローマン》 48kg 級 酒井浩二(群馬・館林) = 5位、 52kg 級 Katama, Yukihiro、 56kg 級 荒川忠雄(群馬・館林高) = 二失、 60kg 級 西口茂樹(和歌山・和歌山北高) = 6位、 65kg 級 有延伸一(福岡・築上西高) = 二失、 70kg 級 Oshita, Mitsuhiro、 75kg 級 Watanabe, Eiji、 81kg 級 新村英之(神奈川・横浜) = 4位、

87kg 級 、 87kg 級以上級 杉浦洋一（群馬・高崎工高）= 2 位

世界選手権（9月22～29日、ソ連・キエフ）

《フリースタイル》 48kg 級 入江隆（自衛隊）= 二失、 52kg 級 朝倉利夫（国土大教）= 2 位、 57kg 級 富山英明（日大教）= 2 位、 62kg 級 栄和人（奈良県協会）= 4 位、 68kg 級 杉野浩吉（自衛隊）= 4 位、 74kg 級 菊地隆（和歌山県教委）= 三失、 82kg 級 長島偉之（栃木・足利工高教）= 二失、 90kg 級 太田章（早大教）= 三失、 100kg 級 本田多聞（日大）= 四失、 100kg 級以上 石森宏一（大体大）= 二失

《グレコローマン》 48kg 級 佐々木文和（島根・松江四中教）= 4 位、 52kg 級 宮原厚次（自衛隊）= 6 位、 57kg 級 江藤正基（自衛隊）= 優勝、 62kg 級 大久保康裕（自衛隊）= 三失、 68kg 級 山口勝之（和歌山県教育庁）= 四失、 74kg 級 向井孝博（自衛隊）= 6 位、 82kg 級 森山泰年（自衛隊）= 二失、 90kg 級 今村民夫（自衛隊）= 二失、 100kg 級 藤田芳弘（和歌山・和歌山北高教）= 二失、 100kg 級以上 武田高広（専大）= 三失

アジア選手権（11月8～11日、イラン・テヘラン）

《フリースタイル》 48kg 級 小林孝至（日大）= 2 位、 52kg 級 佐藤満（日体大）= 4 位、 57kg 級 朝倉利夫（国土館大教）= 2 位、 62kg 級 栄和人（奈良県協会）= 優勝、 68kg 級 杉野浩吉（自衛隊）= 2 位、 74kg 級 樋口直己（奈良県体協）= 2 位、 82kg 級 = 派遣なし、 90kg 級 = 派遣なし、 100kg 級 本田多聞（日大）= 優勝、 100kg 級以上 大川浩一（警視庁）= 3 位

《グレコローマン》 48kg 級 = 派遣なし、 52kg 級 = 派遣なし、 57kg 級 朝倉利夫（国土館大教）= 優勝、 62kg 級 栄和人（奈良県協会）= 2 位、 68kg 級 杉野浩吉（自衛隊）= 2 位、 74kg 級 樋口直己（奈良県体協）= 3 位、 82kg 級 = 派遣なし、 90kg 級 = 派遣なし、 100kg 級 = 派遣なし、 100kg 級以上

ワールドカップ=グレコローマン（11月25～29日、ギリシャ・テッサロニキ）

4 位（3 敗 1 分け）

1 回戦 日本 [3 - 7] ギリシャ

2 回戦 日本 [5 - 5] モロッコ・エジプト連合

3 回戦 日本 [0 - 10] ソ連

4 回戦 日本 [3 - 7] キューバ

《個人成績》 48kg 級 斉藤育造(和歌山県教委) = 3位、佐々木文和(島根・松江四中教)、 52kg 級 宮原厚次(自衛隊) = 3位、 57kg 級 三宅正徳(日体大) = 4位、 62kg 級 大久保康裕(自衛隊) = 4位、芦野茂美(日体大) = 順位なし、 68kg 級 山口勝之(和歌山県立体育館) = 4位、 74kg 級 向井孝博(自衛隊) = 2位

ハパラダ国際大会 = グレコローマン(12月11~12日、スウェーデン・ハパラダ)

48kg 級 佐々木文和(島根・松江四中教) = 優勝、斉藤育造(和歌山県教委) = 4位、 52kg 級 宮原厚次(自衛隊) = 優勝、 57kg 級 江藤正基(自衛隊)、三宅正徳(日体大) = 3位、 62kg 級 大久保康裕(自衛隊) = 四失、芦野茂美(日体大) = 三失、 68kg 級 山口勝之(和歌山県立体育館) = 6位、森巧(国士館大) = 二失、 74kg 級 向井孝博(自衛隊) = 4位

国内

全国高校選抜大会(4月2~3日、新潟・新潟市体育館)

《学校対抗戦》[1] 青森・光星学院高(3年連続4度目)、[2] 茨城・霞ヶ浦、[3] 鹿児島・鹿児島商工、群馬・館林

《個人戦優勝者》 48kg 級 山下浩(茨城・霞ヶ浦)、 52kg 級 岩本博之(福岡・築上西)、 56kg 級 牛込誠一(茨城・霞ヶ浦)、 60kg 級 川村憲保(茨城・土浦日大)、 65kg 級 有延伸一(茨城・築上西)、 70kg 級 角崎朋博(秋田・秋田経法大付)、 75kg 級 石井英明(群馬・太田商)、 75kg 以上級 斎藤竜雄(千葉・佐倉)

西日本学生春季新人戦(4月29日、大阪・桃山学院大)

《フリースタイル優勝者》 48kg 級 是永順次(福岡大)、 52kg 級 平山勝也(大體大)、 57kg 級 福地賢(徳山大)、 62kg 級 表正光(徳山大)、 68kg 級 山本修(徳山大)、 74kg 級 恒川寿正(同志社大)、 82kg 級 杉田直樹(徳山大)、 90kg 級 奥村広人(同志社大)

フリースタイルのみ実施

全日本社会人選手権(5月3~5日、埼玉・朝霞総合体育館)

《団体戦優勝チーム》 官公庁 自衛隊、実業団 ユナイテッドスティール、クラブ 群馬県協会、三部対抗 自衛隊

《フリースタイル優勝者》 48kg 級 石川利明(栃木県協会)、 52kg 級 小林利典(群馬県協会)、 57kg 級 朝倉利夫(国士館大教)、 62kg 級 金子博(群馬県協会)、

68kg 級 杉野浩吉（自衛隊）、 74kg 級 田谷久男（自衛隊）、 82kg 級 長島偉之（栃木・足利工高教）、 90kg 級 浅野修（千葉県協会）、 100kg 級 山本博（栃木県協会）、 100kg 以上級 森康哲（自衛隊）

《グレコローマン優勝者》 48kg 級 佐々木文和（島根・松江四中教）、 52kg 級 菊田順宏（青森たかこう道場）、 57kg 級 朝倉利夫（国士大教）、 62kg 級 江藤正基（自衛隊）、 68kg 級 山口勝之（和歌山県教ク）、 74kg 級 向井孝博（自衛隊）、 82kg 級 森山泰年（自衛隊）、 90kg 級 今村民夫（自衛隊）、 100kg 級 保坂竹道（北日本通商）、 100kg 以上級 松永清志（和歌山ク）

東日本学生リーグ戦（5月12～14・20日、東京・駒沢体育館）

《順位》[1] 日体大（5年連続6度目）、[2] 国士大

（A組）[1] 日体大、[2] 専大、[3] 法大、[4] 中大、[5] 明大、[6] 東農大

（B組）[1] 国士大、[2] 日大、[3] 東洋大、[4] 大東大、[5] 東海大、[6]

拓大

西日本学生選手権（5月20～22日、大阪・大阪府立体育会館別館）

《フリースタイル優勝者》 48kg 級 是永順次（福岡大）、 52kg 級 国広幸信（徳山大）、 57kg 級 西尾章彦（同志社大）、 62kg 級 佐野聰憲（徳山大）、 68kg 級 山本修（徳山大）、 74kg 級 恒川寿生（同志社大）、 82kg 級 今村岳生（同志社大）、 90kg 級 石森宏一（大体大）

《グレコローマン優勝者》 48kg 級 是永順次（福岡大）、 52kg 級 鍛冶将喜（近大）、 57kg 級 仮屋広和（徳山大）、 62kg 級 西井篤（同志社大）、 68kg 級 山本修（徳山大）、 74kg 級 足立涉（徳山大）、 82kg 級 山口育孝（大体大）、 90kg 級 石森宏一（大体大）

東日本学生春季新人戦（6月17～19日、東京・駒沢体育館）

《フリースタイル優勝者》 48kg 級 菅沢孝一（専大）、 52kg 級 小林孝至（日大）、 57kg 級 角地山豊（日大）、 62kg 級 赤石光生（日大）、 68kg 級 西真太郎（日大）、 74kg 級 平山宣伸（日体大）、 82kg 級 赤石明雄（国士館大）、 90kg 級 松井浩幸（東農大）、 90kg 以上級 猿田充（国士館大）

《グレコローマン優勝者》 48kg 級 大黒智明（大東大）、 52kg 級 久保政夫（日大）、 57kg 級 我妻雄比古（日体大）、 62kg 級 菅原弘（国士館大）、 68kg 級 田中浩二（日体大）、 74kg 級 倉内康好（日大）、 82kg 級 赤石明雄（国士館大）、

90kg 級 呑香竜二（日大）、 90kg 以上級 猿田充（国士館大）

西日本学生春季リーグ戦（6月24～26日、大阪・大阪府立体育会館）

《順位》[1] 近大（11季ぶり7度目）、[2] 同志社大、[3] 徳山大、[4] 大体大、
[5] 桃山学院大、[6] 福岡大

全日本選手権（7月1～2日、東京・東京・駒沢体育館）

《フリースタイル優勝者》 48kg 級 入江隆（自衛隊）、 52kg 級 朝倉利夫（国士
大教）、 57kg 級 富山英明（日大教）、 62kg 級 栄和人（奈良県協会）、 68kg 級
杉野浩吉（自衛隊）、 74kg 級 菊地隆（和歌山県教委）、 82kg 級 長島偉之（栃木・
足利工高教）、 90kg 級 太田章（早大教）、 100kg 級 本田多聞（日大）、 100kg
級以上 石森宏一（大体大）

《グレコローマン優勝者》 48kg 級 佐々木文和（島根・松江四中教）、 52kg 級 宮
原厚次（自衛隊）、 57kg 級 江藤正基（自衛隊）、 62kg 級 大久保康裕（自衛隊）、
68kg 級 山口勝之（和歌山県教育庁）、 74kg 級 向井孝博（自衛隊）、 82kg 級 森
山泰年（自衛隊）、 90kg 級 今村民夫（自衛隊）、 100kg 級 藤田芳弘（和歌山・和
歌山北高教）、 100kg 級以上 松永清志（和歌山教委）

インターハイ（8月2～5日、岐阜・岐阜県民体育館）

《学校対抗戦》[1] 青森・光星学院（2年連続4度目）、[2] 茨城・霞ヶ浦、[3] 和
歌山・和歌山北、鹿児島・鹿児島商工

《個人戦優勝者》 48kg 級 山下浩（茨城・霞ヶ浦）、 52kg 級 土直博（鹿児島・
鹿児島商工）、 56kg 級 清森直博（青森・光星学院）、 60kg 級 戸崎素成（岐阜・
岐阜工）、 65kg 級 吉井昌弘（岐阜・岐阜工）、 70kg 級 尾形勝志（青森・光星学院）
75kg 級 奈良岡豊（北海道・岩見沢農）、 75kg 以上級 奈良英則（青森・光星学院）

全日本学生選手権（8月25～28日、東京・駒沢体育館）

《フリースタイル優勝者》 48kg 級 小林孝至（日大）、 52kg 級 佐藤満（日体大）、
57kg 級 井上智明（国士館大）、 62kg 級 赤石光生（日大）、 68kg 級 森巧（国
士館大）、 74kg 級 安田紀久雄（日体大）、 82kg 級 赤石明雄（国士館大）、 90kg
級 水橋徹（国士館大）、 100kg 級 本田多聞（日大）、 100kg 級以上 石森宏一（大
体大）

《グレコローマン優勝者》 48kg 級 小林孝至（日大）、 52kg 級 大川秀和（日体

大)、 57kg 級 三宅正徳(日体大)、 62kg 級 野辺洋和(日体大)、 68kg 級 森巧(国士舘大)、 74kg 級 福岡浩一(国士舘大)、 82kg 級 和田正(専大)、 90kg 級 馳浩(専大)、 100kg 級 本田多聞(日大)、 100kg 級以上 石森宏一(大体大)

西日本学生新人戦(9月10~11日、大阪・桃山学院大)

《フリースタイル優勝者》 48kg 級 保田昌伸(同志社大)、 52kg 級 藤下有路(神戸大)、 57kg 級 西川史人(同志社大)、 62kg 級 橋本勝人(桃山学院大)、 68kg 級 和気清治(桃山学院大)、 74kg 級 糸川長武(同志社大)、 82kg 級 恒川寿正(同志社大)、 90kg 級 奥村広人(同志社大)

《グレコローマン優勝者》 48kg 級 釘持俊昭(近大)、 52kg 級 藤下有路(神戸大)、 57kg 級 西川史人(同志社大)、 62kg 級 田中新悟(近大)、 68kg 級 増田周司(大体大)、 74kg 級 糸川長武(同志社大)、 82kg 級 恒川寿正(同志社大)、 90kg 級 奥村広人(同志社大)

全日本学生王座決定戦(10月7~8日、東京・駒沢体育館) = 決勝成績

日体大 [5 - 4] 日大

日体大は6年連続7度目の優勝

国体(10月16~18日、群馬・城沼総合体育館)

《成年フリースタイル優勝者》 48kg 級 石川利明(栃木・足利工大付高教)、 52kg 級 佐藤満(秋田・日体大)、 57kg 級 上野宏一(群馬・館林高教)、 62kg 級 栄和人(奈良・県体協)、 68kg 級 杉野浩吉(埼玉・自衛隊)、 74kg 級 樋口直巳(奈良・県体協)、 82kg 級 茂木優(秋田・秋田商高教)、 90kg 級 鈴木光(茨城・ユナイテッドスチール)、 100kg 級 本田多聞(茨城・日大)、 100kg 級以上 石森宏一(大阪・大体大)

《成年グレコローマン優勝者》 48kg 級 斉藤育造(和歌山・県立武道館)、 52kg 級 宮原厚次(埼玉・自衛隊)、 57kg 級 小山内喜秀(埼玉・自衛隊)、 62kg 級 大久保康裕(埼玉・自衛隊)、 68kg 級 山口勝之(和歌山・県体育館)、 74kg 級 谷一郎(群馬・大田商高教)、 82kg 級 森山泰年(埼玉・自衛隊)、 90kg 級 今村民夫(群馬・自衛隊)、 100kg 級 藤田芳弘(和歌山・和歌山北高教)、 100kg 級以上 松永清志(和歌山・県武道館)

《少年フリースタイル優勝者》 48kg 級 山下浩(茨城・霞ヶ浦)、 52kg 級 土直博(鹿児島・鹿児島商工)、 56kg 級 牛込誠一(茨城・霞ヶ浦)、 60kg 級 小芦英

夫(群馬・太田商)、65kg級 古矢浩祥(千葉・八千代松陰)、70kg級 尾形勝志(青森・光星学院)、75kg級 石井英明(群馬・太田商)、81kg級 斎藤龍雄(千葉・佐倉)、87kg級 田中裕司(新潟・巻農)、87kg以上級 奈良英則(青森・光星学院)

《少年グレコローマン優勝者》48kg級 宮原稔(富山・高岡一)、52kg級 志賀正尚(岡山・美作)、56kg級 小森正巳(岐阜・岐阜西工)、60kg級 西口茂樹(和歌山・和歌山北)、65kg級 有延伸一(福岡・築上西)、70kg級 松本誠也(群馬・館林)、75kg級 奈良岡豊(青森・光星学院)、81kg級 池田信次(埼玉・埼玉栄)、87kg級 中山淳(茨城・霞ヶ浦)、87kg以上級 石橋浩一(東京・東京実)

東日本学生グレコローマン選手権

全日本大学選手権(11月3~4、奈良・河合町立体育館)

《優勝者》48kg級 小林孝至(日大)、52kg級 大川秀和(日体大)、57kg級 井上智明(国士舘大)、62kg級 赤石光生(日大)、68kg級 高橋(日体大)、74kg級 平山宣伸(日体大)、82kg級 安田紀久雄(日体大)、90kg級 深沢隆一(中大)、100kg級 本田多聞(日大)、100kg級以上 石森宏一(大体大)

《大学対抗得点》[1] 国士舘大(7年ぶり2度目)、[2] 日体大、[3] 日大

西日本学生秋季リーグ戦(11月25~27日、大阪・大阪府立体育会館)

《順位》[1] 同志社大(23季ぶり5度目)、[2] 徳山大、[3] 関大、[4] 近大、[5] 大体大、[6] 桃山学院大

東日本学生秋季新人戦(12月1~3日、東京・駒沢体育館)

《フリースタイル優勝者》48kg級 大橋正教(山梨学院大)、52kg級 中尾康訓(中大)、57kg級 森下敏清(日体大)、62kg級 角地山豊(日大)、68kg級 武藤徹(東洋大)、74kg級 坂野下喜三(日大)、82kg級 平山宣伸(日体大)、90kg級 赤石明雄(国士舘大)、90kg以上級 浅井功(日体大)

《グレコローマン優勝者》48kg級 大橋正教(山梨学院大)、52kg級 小林孝至(日大)、57kg級 飯森勇次(東洋大)、62kg級 原喜彦(日体大)、68kg級 三宅靖志(東海大)、74kg級 大拙守(明大)、82kg級 平山宣伸(日体大)、90kg級 赤石明雄(国士舘大)、90kg以上級 本間和吉(専大)